新村の人口・世帯数
令和2年９月1日現在

世帯数	1,313	戸
男	1,535	人
女	1,655	人
合　計	3,190	人

夏休みの思い出に 公民館寺子屋開催!!

８月３日(月)４日(火)の２日間、公民館寺子屋が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止で参加人数を制限するなか、２日間で延べ25人の参加がありました。１時間程度、持参した課題帳などで自由に勉強し、その後レクリエーションを楽しみました。

初日は、講師に下新北町会の和田哲雄さんをお迎えし、理科の実験が行われました。目の前で起こる数々の化学現象に、子ども達から大きな歓声があがりました。和田さんは「なぜこのような現象が起こるのか、疑問に思うことが大事」と呼びかけておられました。

２日目は、松本大学教育学部の学生さんが講師となり、野菜スタンプで彩るエコバッグ作りなどが行われました。エコバッグの絵柄作りは個性が出て、シンプルにスタンプを一点のみ押す子もいれば、一生懸命に模様を作る子もいました。

公民館寺子屋は今年で４回目の開催となり、今年初めて松本大学から学生さんが参加。子ども達からも好評で、「来年も大学生に教わりたい」と感想を話してくれました。

田野口塾長は総評で「寺子屋で学んだ内容を、ぜひ学校生活に活かしてほしい」と話されました。

大学生のお姉さんに教わりながら

不思議な現象に興味深々♪

ハンギングバスケット作り初体験

７月14日（火）ＪＡ新村支所外倉庫の一角をお借りして、公民館主催のハンギングバスケット講座が行われました。日本ハンギングバスケット協会の松本支部長・岩本真美さんの丁寧な指導に従いバスケット作りに挑戦しました。

色、種類の違うベコニア花苗の８ポット選びからはじまる。→バスケットのスリット部分に専用スポンジを張り付け、下部に土を入れ植え付け開始。→下から順に１株・２株・３株・２株と４段に向き、バランスを見ながら植え込む。→土の流出を防ぐため表面に水苔を敷く、スリット部にも水苔を詰め完成。初めてにしては、皆さんよくできました。

終わりに、前支部長の竹下光重さんに余ったベコニアで公民館用のバスケットを作っていただきました。手際良く、バランスのとれた綺麗なバスケットが出来上がり流石でした。

おうちのお洒落アイテムに大変身♪

新村地区福祉ひろば事業 推進協議会合同視察研修 「フォッサマグナをたどる！糸魚川の旅」

「天気快晴…今日も暑いぞ！」８月21日（金）30名ほどの参加者は、マスク着用、同乗者の間隔をとって出発！

稲穂も垂れ始めた緑色の田園、黄色いひまわり畑、青色の湖を眺めながらバスは北上します。途中「道の駅」での休憩は高齢者に欠かせない。３時間ほどで「フォッサマグナミュージアム」に到着。そこで１時間ほど日本列島の成り立ちを学びました。ヒスイ（翡翠）がなぜ姫川周辺で多く採取されるかがわかりました。昼は糸魚川駅近くで海の幸を堪能、食後は５分ほど歩いて日本海を眺望しました。帰路の途中「フォッサマグナパーク」を見学しました。フォッサマグナ（大きな溝）その西側の境界が糸魚川―静岡構造線です。日本列島を東西に分ける断層（西の４億年前と東の１６００万年前）は必見です。自分たちの住んでいる「大地」を知る貴重な体験でした。

出歩けない時期の楽しいひと時を満喫しました。

足元のプレートは西？東？

八束穂

９月１日付けで「もぐさ太郎祭りだより」特別発行第１号が届いた。太郎祭り30回目の節目開催がコロナ禍のため式典のみの開催になったためだ▼太郎と云えばこの地の宝である。この宝を守り育てて行かなくてはならない。御伽噺（おとぎばなし）ではものぐさ太郎は本地物の代表作である。新村では太郎を神として崇めてきた。現世でもご利益を頂きたいものだ▼十数年前、近隣の太郎を奉った場所を巡ったことがあった。各地に伝承地があり驚いた。忘れられない内にもう一度巡ってみたいものだ。縁の地の代表者に集まっていただき「太郎サミット」を盛大に行ったこともあった▼御伽噺のものぐさ太郎を地区の宝にすべく、新しく現代口語体で描いてもらったらどうだろうか。百年経てば本当の宝になる。編纂委員会を設立したらどうだろうか▼段雷の音、コーラスや踊り、餅投げ時の老若男女の歓声。この禍々しい時節を乗り越え、来年は賑やかく行いたいものだ。

※本地物＝良い行いをして神として奉られる物語
※段雷＝人呼び花火（音物）

コロナ禍の大学授業はオンラインで始まりました。

松本大学松商短期大学部　准教授　廣瀬　豊

コロナ禍の感染リスク対策として、松本大学では、5月からオンラインで授業を行ってきました。教員も慣れないオンライン授業で心配しながらスタートしましたが、やって良かったと感じる点もありました。学生にとっては通学の必要がなく、時間を有効に活用できるようになったり、スライドや資料が見やすくなったり、他の学生がいないので静かで集中できるなどのメリットが挙げられました。もちろんデメリットとして「課題が多すぎる」「わからないことを友達に聞けない」「大学の施設が利用できない」などの意見もあります。

オンライン授業は、新しい授業の形や大学の魅力として考えていきたいと思っています。

これからの地域活動や公民館活動としても「オンライン」の活用を模索してはいかがでしょうか。離れた地区の人や普段は会えない人たちとの交流・学習の機会も増えると思います。コロナが収まった時、これまでの地域活動に加えて、オンラインの活動が新しい地域活動のひとつになると思います。

機材を駆使して授業に臨みます

お詫びと訂正

公民館報7月30日号掲載　くれき句会一人一句　柳澤和子さんの句は、正しくは「枇杷熟るる屋敷の中を川流れ」の誤りでした。訂正してお詫び申しあげます。

電車に乗って廃寺跡へ

7月16日（木）上高地線の最寄駅から、渕東駅に参加者15名が集合。あたらしの郷学びの友部会と公民館共催で「若澤寺跡」を見学しました。若澤寺保存会の百瀬光信さんに講師をお願いして、2キロほどの参道を歩きました。

廃仏毀釈令で廃寺になるまで「信濃日光」と呼ばれるほど大きなお寺であったとのことです。

現在は礎石、石垣、墓所がわずかに残るのみ。建物・宝物は田村堂、盛泉寺等に散逸したそうです。

昼食には地元農家さんからスイカの差し入れがあり、美味しく頂きました。

梅雨最中ながら天候に恵まれたので、盛泉寺まで足を延ばし、波田駅より帰宅しました。

距離を保ちながら参道を歩く

ものぐさ大学　美術館めぐり

7月29日（水）山梨県北杜市にある平山郁夫シルクロード美術館と身曾岐神社を、19名で訪ねました。

学芸員の説明を真剣に聞く

平山郁夫は日本文化の源流を求め、仏教伝来の道「シルクロード」を150回も取材したとのこと。そして仏教が広まる様子の幻想的な絵画の制作や美しい仏像たちの収集等を通し、日本の素晴らしさを再発見。平成になり「日本の風景」を描き出したといいます。

祭神天照大御神の身曾岐神社は、八ケ岳南麓の地を「高天原」と想定し、東京上野の井上神社を遷座し、神社号を「身曾岐神社」にしたとのこと。

風格ある神明造りの本殿や、幽玄な能楽殿を拝観し、コロナ感染の終息を祈願しました。

公民館に新しい仲間!?

下新北町会の和田哲雄さんより、木彫り彫刻の作品をご寄贈いただきました。▼和田さんは、若い頃より浮き彫り文字を中心に作品作りを行っており、コロナ禍で制作に充てられる時間が増えたことで、公民館用に作ってくれたとのことです。▼入口に飾らせていただいておりますので、ご覧ください。

公民館にようこそだワン♪

コロナ終息を願って

下新北町会の松森清昭さんより、公民館に妖怪アマビエの絵をご寄贈いただきました。▼アマビエは、疫病の流行を防ぐご利益があるといわれており、全国的に話題となっています。▼いまだコロナの勢いは衰えておりませんが、いち日でも早く平穏な日常が戻ることを、願っております。

コロナ終息のキーマン!?